AIPOシステム

GOALを伝えれば、AIが勝手に仕事を進める

BEFORE: AIPM (Human Driven)

AFTER: AIPO (Goal Driven)

「道具」としてのAIから、「自律的パートナー」としてのAIへ

Methodology by Daisuke Miyat NotebookLM

2025年、生成AIのアウトプットは「ミドルレベル」に達した

現状 (Status Quo)

誰もがAIを使う時代。AIはもはやジュニアレベルではなく、特定の思考力ではシニアレベルに到達している。

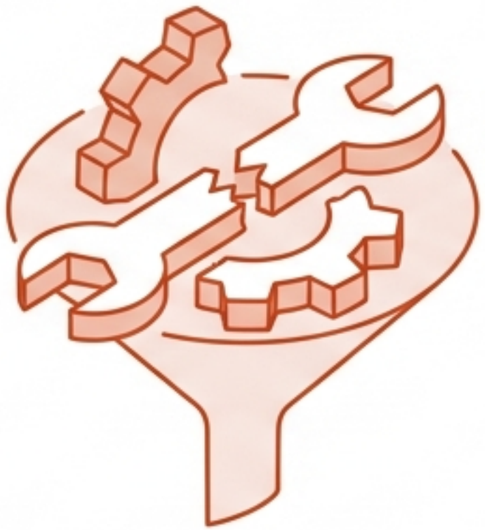
直面している課題 (The Pain)

しかし、現場では「AI疲れ」が起きている。

- **指示出しのコスト**: プロンプトエンジニアリングが面倒で続かない。
- **文脈の喪失**: チャットが長くなると、前の議論や前提条件を忘れてしまう。
- **マイクロマネジメント**: 結局、人間が「次はこれをして」と指示し続ける必要があり、人間がボトルネックになっている。

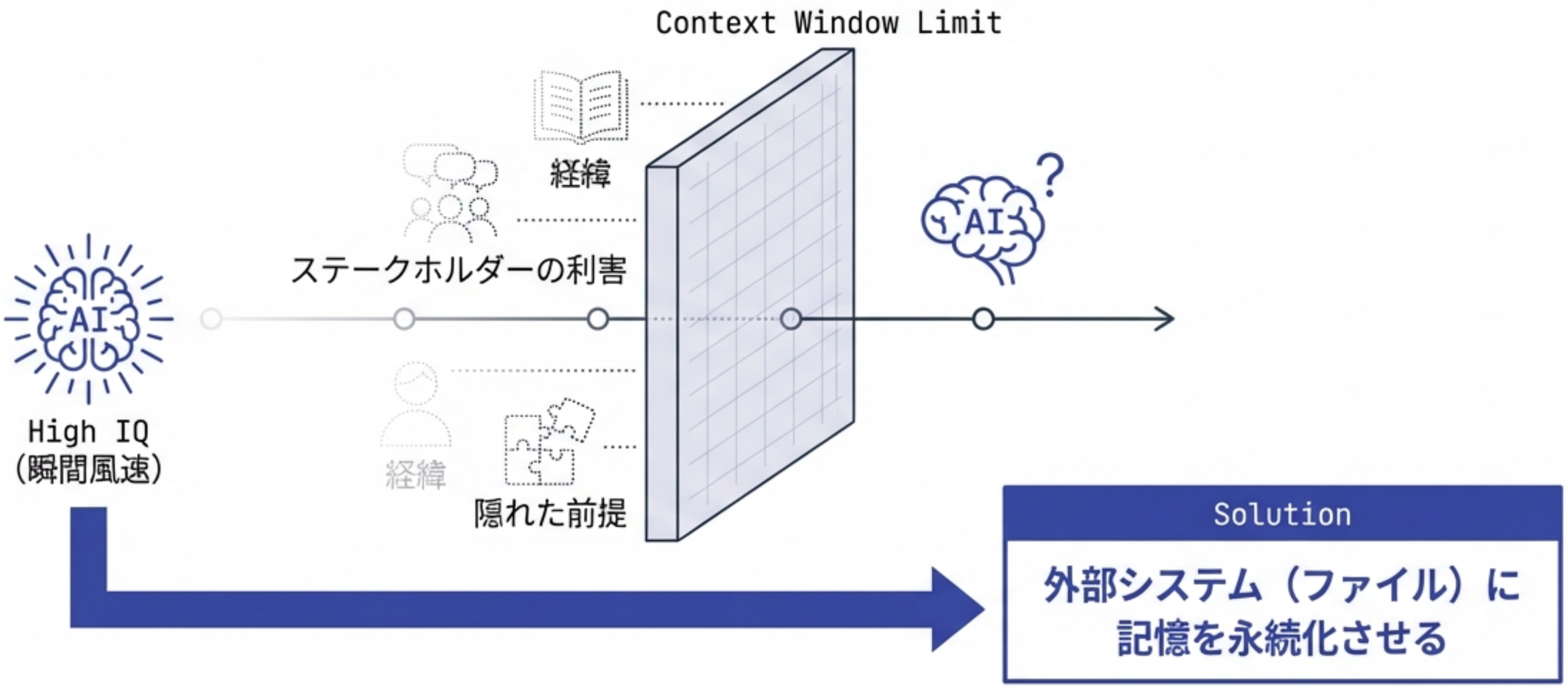
Key Insight

人間がAIを道具として使う「AIPM（AI Product Management）」のアプローチは、限界を迎えつつある。



NotebookLM

最大の壁は「ロングコンテキスト問題」



AIは「瞬間風速（IQ）」は高いが、「記憶力（Context）」が弱い。複雑なプロジェクトの経緯や未来の優先順位を保持し続けられないため、人間は「記憶喪失の天才のお世話係」になってしまっている。

NotebookLM

AIPO（AI Product Owner）とは何か？

Jeff PattonのPO思考プロセスをAIに再現させた「汎用問題解決システム」

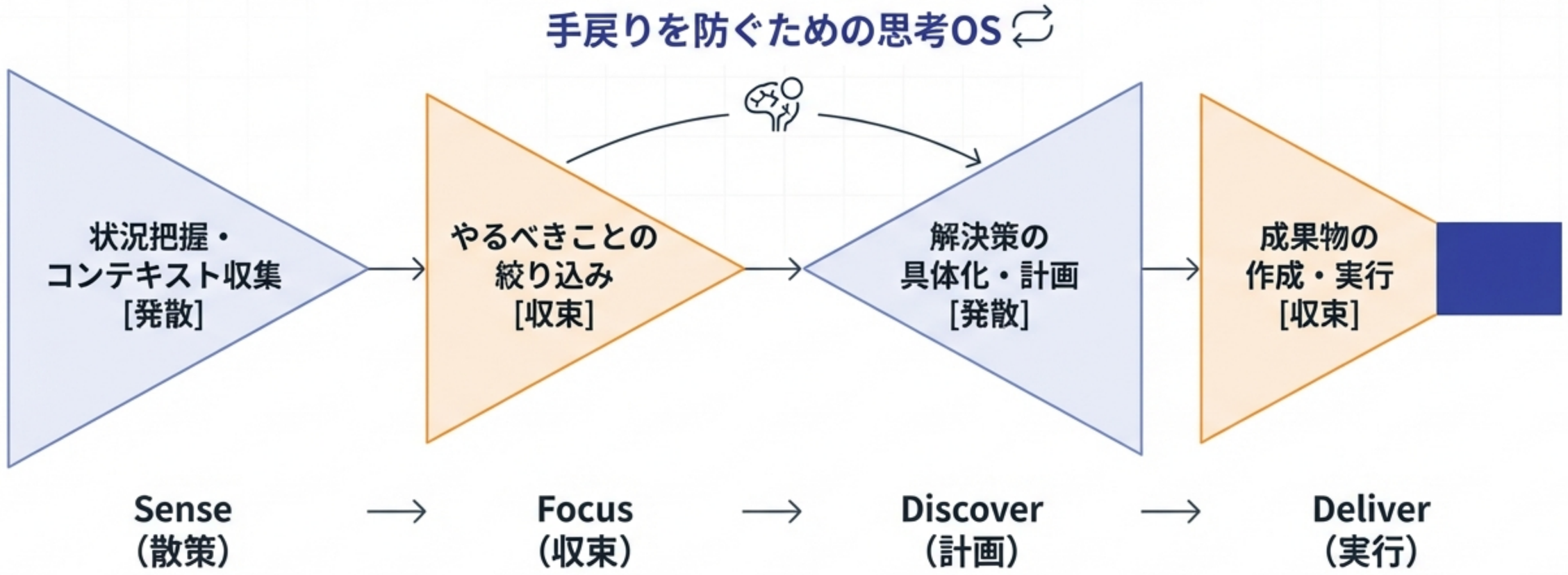
AIPM（Old）	AIPO（New）
役割: 便利な「プロンプト集・道具箱」	**役割:** 自律的な「システム・構造」
駆動: Human Driven（人間が逐一指示）	**駆動:** Goal Driven（ゴール設定で自走）
記憶: 揮発性（チャットログ）	**記憶:** 永続性（ファイルシステム）

「GOALだけ伝えれば、AIが勝手に仕事を進める」

NotebookLM

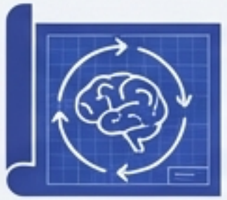
思考のOS：「Jeff Pattonモデル」の実装

不確実性の高い問題に対し、発散と収束を繰り返すプロの思考プロセスをAIに強制する。



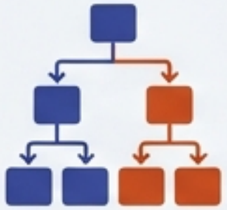
NotebookLM

AIPOを支える5つのコア原理



PO Thinking Replication

Sense → Focus → Discover → Deliver のサイクルを一貫して回す。



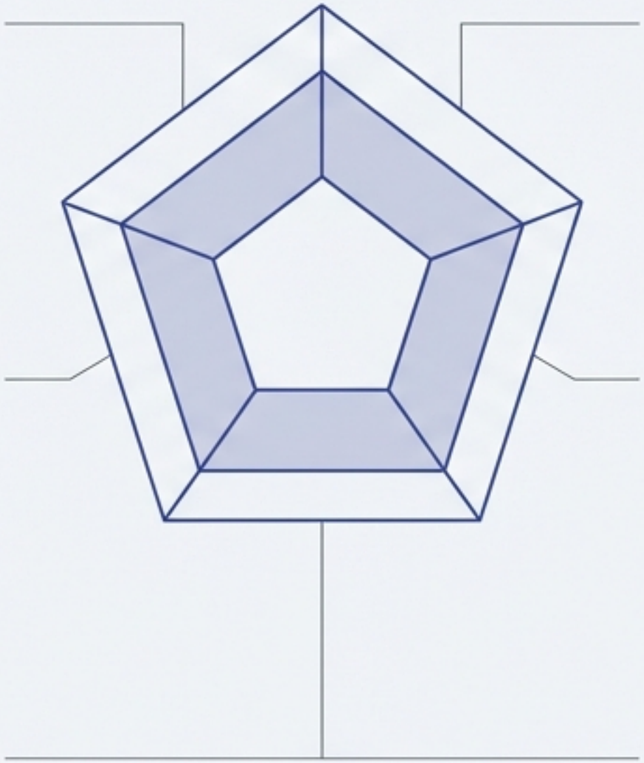
Context Cascade (文脈の滝)

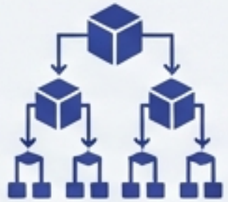
上位の目的（Context）が、滝のように下位タスクへ自動継承される。

Self-Describing Task

JetBrains Mono

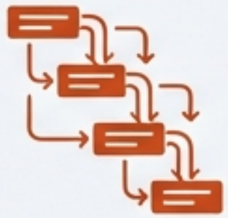
タスク自体が「実行命令」と「検証基準」を内包している。





Fractal Decomposition (フラクタル分解)

全階層で「全員がPO」として動く自己相似構造。



Context Cascade (文脈の滝)

上位の目的（Context）が、滝のように下位タスクへ自動継承される。

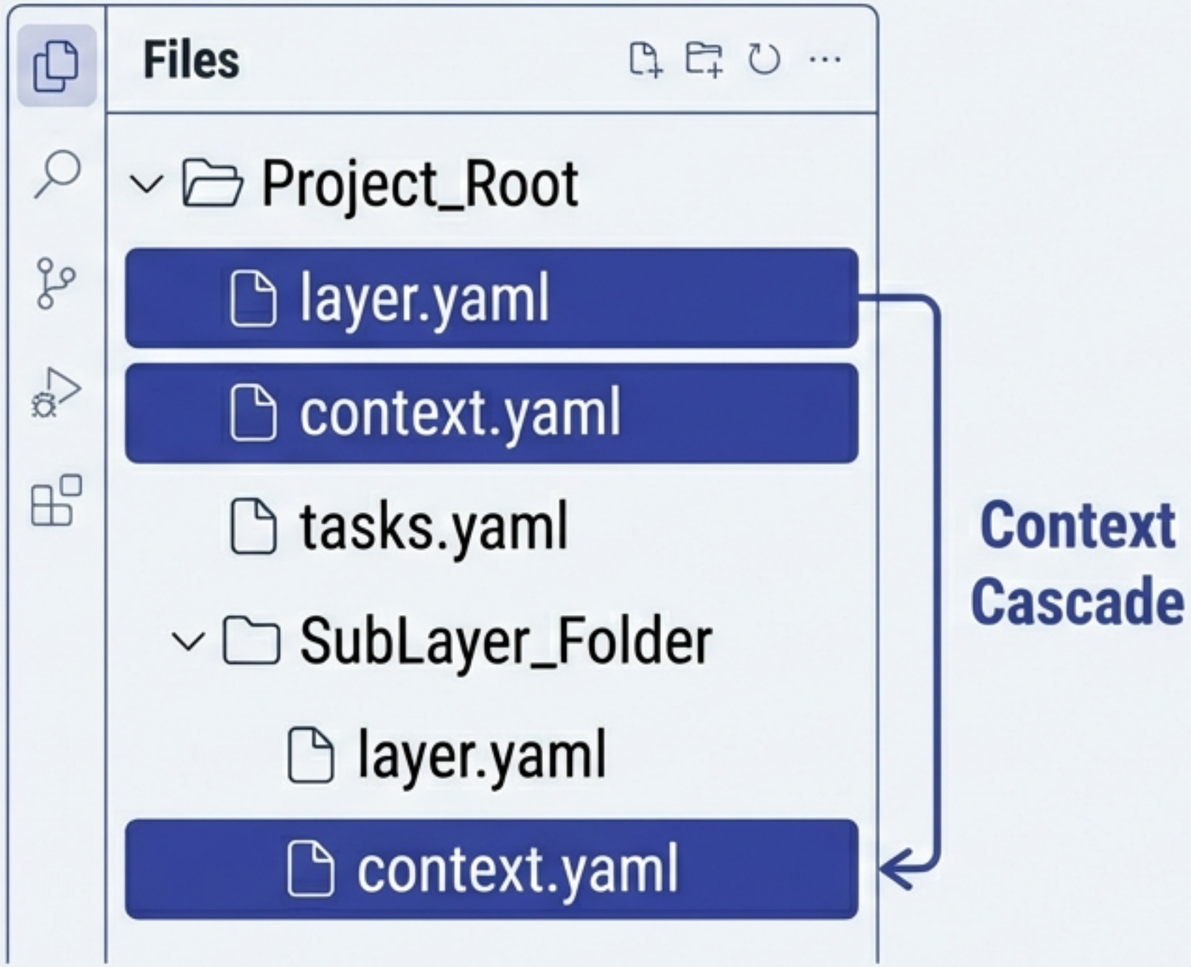
Feedback Loop

JetBrains Mono

Deliverの結果を次のSenseへ学習としてフィードバックする。

NotebookLM

実装：チャットから「ファイルシステム（IDE）」へ



- **進化:** Notion/Chatベースから、**IDE**でのファイル管理へ。
- **記憶の永続化:** 文脈はすべて**YAMLファイル**で管理。
- **メリット:** 文脈が揮発しない。チームで**Git管理**・共有が可能。再現性が高い。

NotebookLM

ユーザーが叩く「5つのコアコマンド」

`/aipo/01_sense`	[Goal設定・収集] Goalを定義し、context.yamlを生成
`/aipo/02_focus`	[調査・分解] タスクを洗い出し、tasks.yamlとサブフォルダを生成
`/aipo/03_discover`	[計画] 実行するための具体的なコマンド群（Commandsフォルダ）を生成
`/aipo/04_deliver`	[実行] 成果物（コード、ドキュメント、DB）を作成
`/aipo/05_operation`	[運用] 作成された成果物を運用・量産するフェーズ

NotebookLM

ケーススタディ：60人規模のカレーパーティを1日で企画

Input

Goal: カレーパーティをEXPLAZAで懇親会として開く

Process

Sense
目的・人数・予算・アレルギー確認

→ **Focus**
企画・調達・運営に分解

→ **Deliver**

Human/Will/Context
人間の遅度とを、コンテクストを理解1る

Output

イベント企画書
(Timeline, Budget)

メニュー設計書
(Recipes, Ingredients)

データベース
(Participants DB, Inventory DB)

結果: 企画から運用DB構築までを1日で完遂。

NotebookLM

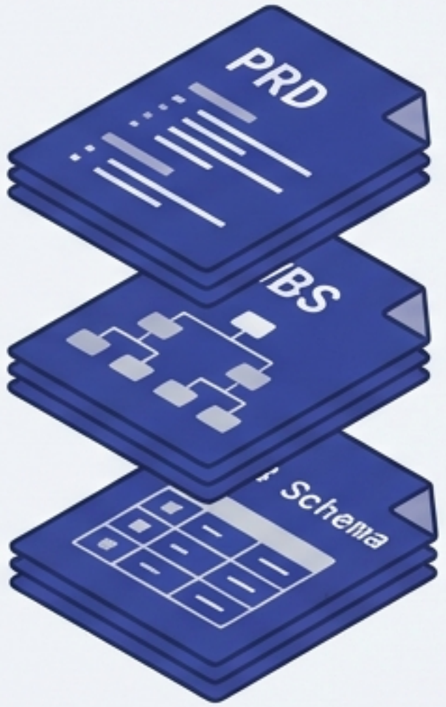
専門家視点 (Roles) と テンプレート (Templates)

Goalの性質に合わせて「人格」と「道具」を使い分ける

Roles（36種類）

戦略コンサルタント、UXデザイナー、システムアーキテクト、DevOpsエンジニアなど。
「市場調査」ならコンサル視点でSenseし、「実装」ならエンジニア視点でDeliverする。

Command Templates（89種類）



プロジェクト憲章、ペルソナ分析、WBS、DB設計書など。
専門家の思考フレームワークを自動的に適用。

NotebookLM

人間の役割の変化①：「コンテキストの保持者」

Search（検索）- AIが得意

目的が明確な探索。

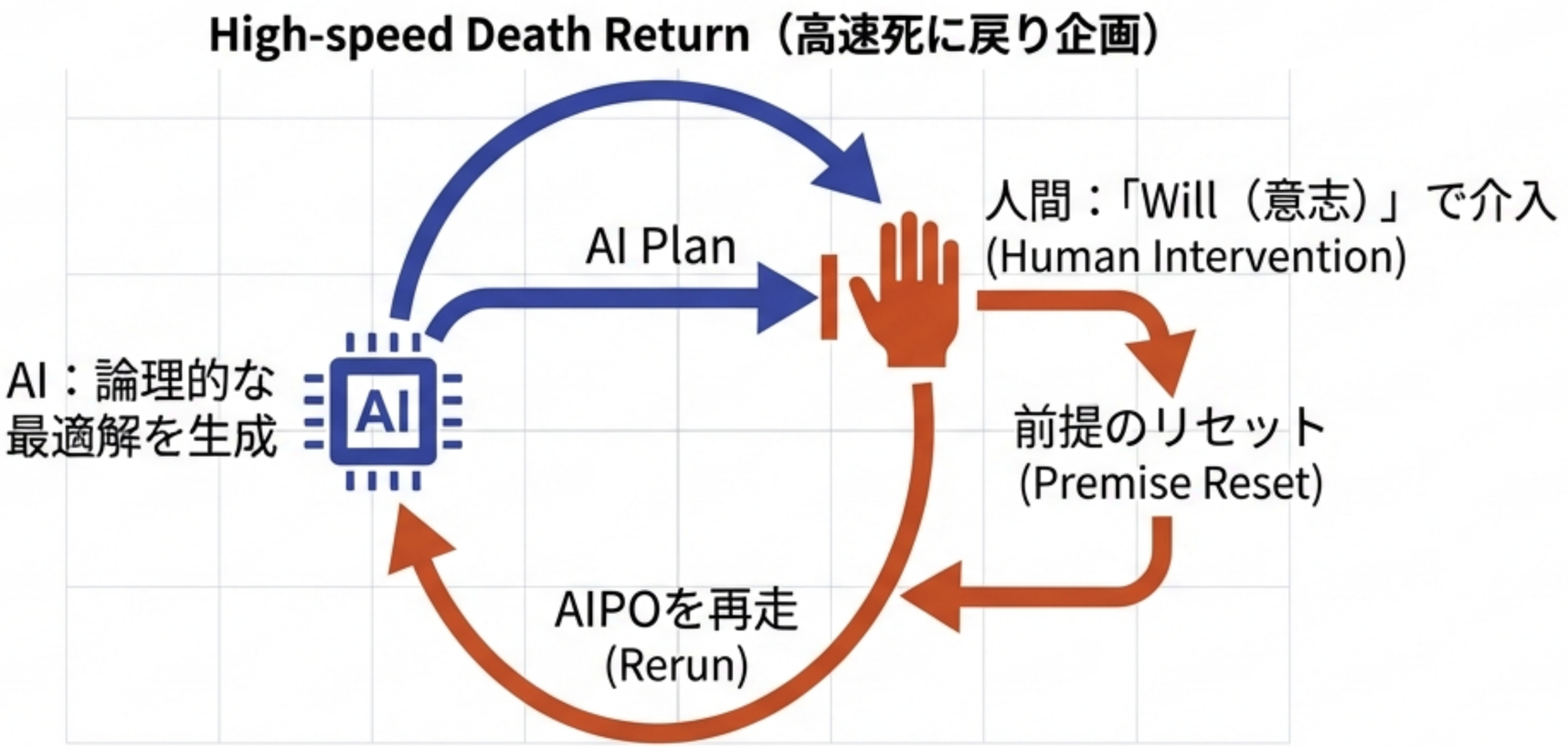
Stroll（散策/Sense）- 人間の価値

目的のない散策。現場の空気感、違和感、複雑な人間関係などの「ロングコンテキスト」を拾い集める。

人間は「ロングコンテキスト」を拾い集め、AIに渡す「ショートコンテキスト」へ切り出す役割を担う。

NotebookLM

人間の役割の変化②：「意志（Will）」の注入

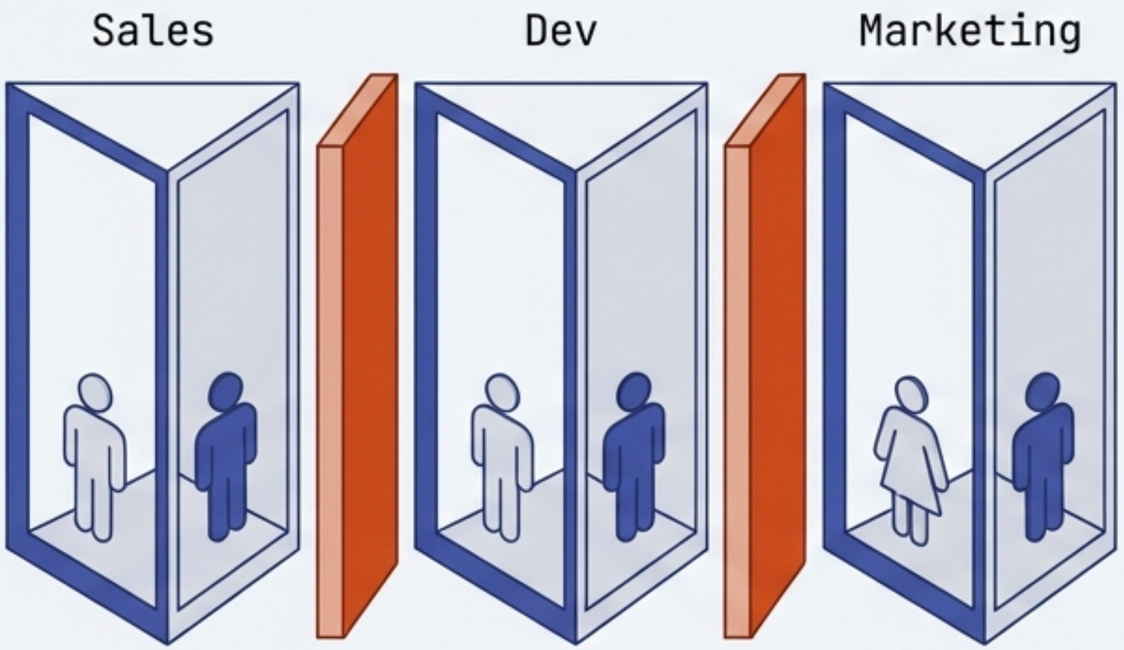


AIは「意思決定(Decision)」はできるが、責任を取る「意志(Will)」は持てない。
人間は論理的な最適解に対し「なんか違う」と前提を覆し、納得いくまでAIPOを再走させる「指揮者（オーケストレーター）」になる。

NotebookLM

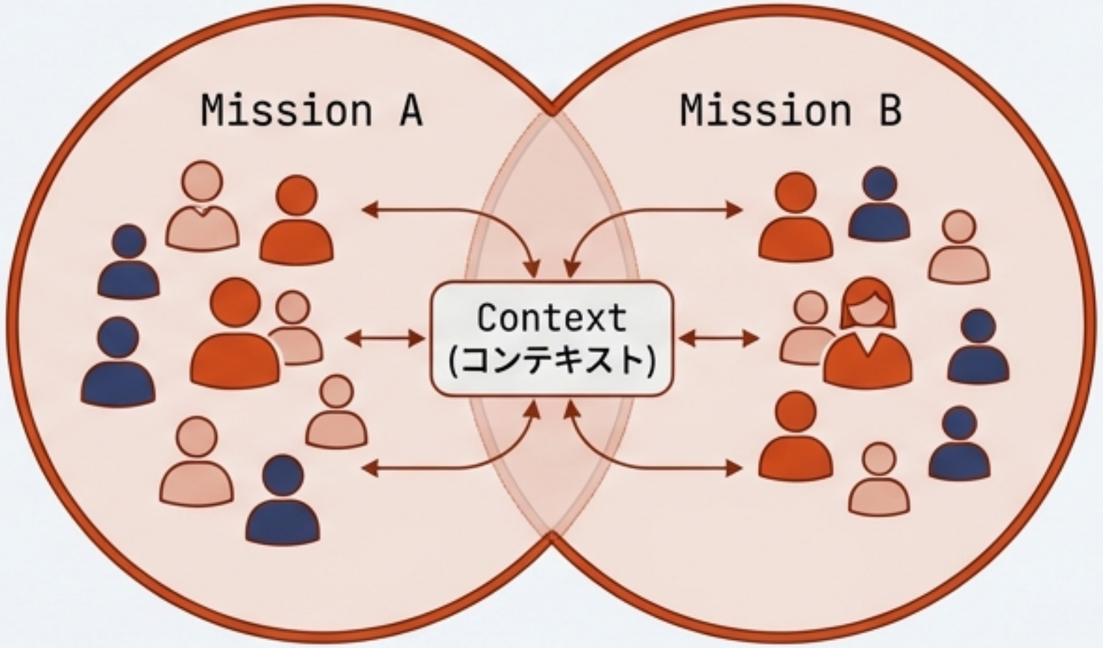
組織構造の変革：職能別からミッション別へ

Old: Functional (職能別)



人々は壁に隔てられている。

New: Mission/Domain (ミッション別)



多様なチームが中心のコンテキストを共有する。

AI時代の新しい職種:

- 全体設計者 (Architect)：ゴールと構造を決める。
- 人月AI管理者 (Man-Month AI Manager)：特化型AIエージェントを束ねてアウトプットを最大化する。

NotebookLM

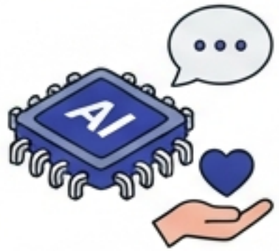
ロードマップ：AI Nativeな未来へ

Now: AIPO V3

ワークフロー化:
Human-in-the-Loopによる確実な実行と、プロンプトベースの不安定さの排除。

Future: AI Native

自律的提案: AIが主体となり、人間がサポートに回る。
AIが「前提条件を変えるべき」と人間に提案する未来。



NotebookLM

面倒な調整や忖度はAIPOに任せて、私たちは「意志」と「愛」だけでつながる世界へ。

- GitHub: `./install.sh` でインストール
- Community: Discord「AIPMコミュニティ」へ参加

miyatti (宮田大督)
Explaza CPO / Generative AI Evangelist

GitHub　Note　X

NotebookLM